

グループディスカッション ワークシート

グループ名：D

【テーマ】「武蔵野市における協議会の課題と目標
～5つの専門部会の活動報告を踏まえた今後の展望～」

ワーク1：「各部会の活動報告を受けて」

- ・アンケートから直接交流を深めたかったが、コロナ禍で手紙での交流になった。最後は運転手の困っていることを解決しようと手紙でやり取りから始め、具体的なアクションを起こしたことが分かり、印象に残った。
- ・うれしかったエピソードを伝えたことがよかったと思った。非常に感銘を受けた。
- ・練った答えを出したところは、手紙の形でよかったと思う。
- ・今後は直接対面につなげていきたい。また、今回の企業以外にも含めてつながっていきたい。
- ・障害者と住民が交わる場所で交流が広がっていくとより笑顔が増えると思った。
- ・生活インフラとポジティブなコミュニケーションをとる、パートナーシップを作っていく形がわかり、とても重要だと思った。
- ・手指消毒、マスクなどウイズコロナ、アフターコロナと変わっていく様子を感じた。
- ・アンケートでは外出機会が減少した、受注が下がったという結果があり、コロナの弊害を感じた。
- ・今後感染症対策の変化、マスクの制限がなくなるなど、変化していく中での対応策などもあったほうが良いのかもしれないと思った。
- ・事例集が出せたのは良かった。
- ・当事者のニーズを受けながら、事業所として何ができるか考えることにつながった。
- ・近隣の病院の話を聞いたが、退院したくても受け入れ施設がない。GHに入居しても病院に戻ることが多いという話もあった。地域移行を真剣に考えていることがわかった。もっと具体的に聴きたいと思った。
- ・地域の理解を得るために不動産屋、大家などに勉強会ができればいいのではないかな。
- ・行政での地域移行と地域移行部会が連動していく方法を考える必要がある。
- ・長期入院患者が地域のイメージがつかないので、イメージづくりをどう作るか、行政でサービスを出していくだけでは足りない部分があるのではないかなと思った。
- ・地域移行について、当事者としてできることがあるのではと思った。
- ・居住支援に関心を持った。
- ・地域移行は、社会資源が不足の中、地域・ニーズ分析を行ったところがあった。相談支援専門員の話を聞いたのは、興味深かった。
- ・雲をつかむものを少しでも具体的に見える化するために、事例を通したことで、現場から学ぶことは多いと改めて感じた。
- ・多くの部会で、アンケートや事例等を通して地域課題を考えていく形をとっていたと感じた。

ワーク 2：「今後の協議会活動に向けて（課題と目標）」

ワーク 1 を踏まえ、今後本協議会が取り組むべき課題と目標などを意見交換する

来年度以降どのように地域課題を積み上げていくか

＜協議会活動の形など＞

- ・パートナーシップが大切ではないか。簡単にできることではないからこそ、当事者、事業者、行政皆で、地域課題を解決していくために一緒に考えていく場になればなおよいと思う。
- ・色々な立場が集まることで色々な意見が出ると思う。
- ・各部会に当事者が参加していることは、強みだと思うので、引き続きこのまま継続していくといいと思う。
- ・地域課題がたくさんありすぎるが、インフォーマルフォーマル関係なくできればと思う。一緒に考えて行く必要がある。
- ・今期の部会は課題があってそれからどうするかという形で始めたが、このほうが生産的に話し合いができるのではと思った。
- ・地域移行と地域生活支援拠点部会のネットワークが重要と思う。それぞれで集めた課題をミックスさせて考えるとより深まると思った。
- ・相談部会がないということで、相談部分でだれが何を担うか、それぞれの役割分担、連携をどうしていくか、連携をどうしていくか、ということを考える場が重要と思った。
- ・相談支援事業所がどのような役割分担で支えていくか、がヒントになった。

＜情報発信について＞

- ・地域へ発信が大切と思った。
- ・地域では当事者との交流機会が少ないため、病気になり人生おしまいとってしまうのではないかな。できるだけ多くの人に精神疾患を理解してもらえるようにできるといいのではないかな。
- ・むさしのエフエムなどで話をすることができればいいのではないかな。
- ・実際うつになる人が増えている。どこに相談したらいいか、などわかるようになるといいと思う。
- ・武蔵野大学や成蹊大学、障害者雇用している会社などに行って話をすることで、実は家族に当事者がいるという話が出てくることがある。地引網のようになる。